最古の築港遺跡・和賀江島の清掃

自治会や商店会、親子など約400人参加

現存する最古の築港遺跡で国指定史跡の「和賀江島」の清掃・保全活動が大潮の5月16日行われ、市民ら約4百人が参加した＝写真。

材木座自治連合連絡協議会（村越正俊会長）が中心となり、5月に活動を行っており、今年34回目。

好天の下、近隣の住民、自治会や商店会、鎌倉市長はじめ市の職員、ボランティアグループなどが集まった。親子の姿も多くみられた。受付でゴミ袋とトングを受け取ると、引き潮で遠くの方まで姿を見せている岩場を歩きながら、ゴミを集めた。

15年ほど前から毎回参加している岩手県北上市の佐藤克英さんらのグループは、今年も前日から車で7人できて奉仕した。

NPOの自然体験グループの小学生ら50人もゴミを拾いながら、カニやヤドカリなどの生き物と触れ合っていた。

1時間ほどでゴミ袋の山が積み上げられた。

古式ゆかしく「草鹿」を奉納

小笠原流保存会が子どもの成長祈願

日本晴れの端午の節句の5月5日、子どもの健やかな成長を祈願して小笠原流の鎌倉古式弓道保存会（有井弘臣会長）が、古式にのっとって「草鹿」の儀式を鎌倉宮で奉納した＝写真。

鎌倉時代、源頼朝が家臣の弓術上達法として、草を束ねて作った鹿を射て、稽古させたのにちなむ儀式で保存会の人たち27人が烏帽子に狩衣姿の装束で披露した。

縦横50㌢余、小鹿ほどの大きさの的は鹿革のぬいぐるみ。5人ずつ紅白に別れた射手が、つるした鹿の的に18㍍の距離から順に矢を放つ。

鹿には大小24個の白の円形があり、的中の部位や所作で勝負を競う。

ブーンと音を立てて飛ぶ鏑矢もあった。射手には水干狩衣姿の女性もいた。勝ち組には「尚武」と音が同じ、ハナショウブが神職から贈られた。

1981年から行っており、しばし悠久の世界にひたった。

ひと

地域のつながりを深める鎌倉社協の新会長

梅澤（うめざわ）　淑弼（よしのり）さん

「めざすことは安心して暮らせる社会づくり。末端の地区単位がしっかりしていれば、社協もしっかりしていく」

鎌倉市社会福祉協議会・大嶋文夫前会長から推薦を受け、4月に会長に就任した。

社協は『地域福祉の推進を図る団体』として全国に設置された民間組織。

鎌倉市社協は1952年に任意団体として設立し、75年に法人となった。地区社協、自治町内連合会、民生委、福祉団体・同施設などで組織されている。

福祉の総合相談窓口として、介護保険や障害者居宅介護の相談・支援、地域包括支援センター、老人福祉施設の管理・運営、ボランティア活動の推進など幅広い活動をしている。

「自分がしていることはこれまでやってきたことの延長線上にある」

岩瀬町内会長、保護司の仕事をしている。

岩瀬町内会長は04年からで、3期6年目。2610世帯の大所帯。

「人と人とのつながりを大切にする催しをするのは社協と同じ」

町内会の行事は夏に盆踊りや五所稲荷神社の祭りがあり、模擬店がたくさんでる。秋は敬老長寿のつどいやスポーツ振興会主催の市民運動会が行われる。

「最近、親子に加えおじいちゃん、おばあちゃんと大家族で参加する人がふえている」

岩瀬は昔は田んぼが多い地域で住民のつながりが深かった。そのころのお祭の広場を再現し、世代を超えた交流の場をつくろうとしている。

「高齢化社会になり、町内会のかかえる問題も同じ」

岩瀬の3千を越える世帯のうち町内会に入っていない世帯が4百世帯ほどあり、個々の把握ができていない。一人暮らしのお年寄りなど非常時の対応をどうやっていくかが問題になっている。

01年に県立鎌倉高校の校長を退職し、02年から保護司をしている。教員時代に高校で生徒指導をしていた。

「生徒指導は四六時中だったが、今は月2回の面接のみ」

保護司はボランティアで、犯罪者や非行に走った人たちの立ち直りの援助や、犯罪や非行の予防に関する住民の相談に応じ、必要な助言・指導を行うなど、更生保護行政の重要な役割を担う。

「福祉の基盤づくりに尽力していきたい」

8月に市社協主催の「かまくら朝顔市」（2面に紹介）、9月に「福祉まつり」などの催しを控えている。（C）

砂の芸術づくりや靴とばし大会

逗子海岸でこどもの日のつどい

こどもの日の5月5日、逗子海岸で逗子市主催の「第32回こどもの日のつどい」が行われた＝写真。

毎年恒例の行事だが、今年は快晴の年は珍しく、強い陽光が降り注ぐ中、子どもたちが歓声をあげ、「砂の芸術」や「靴とばし大会」を楽しんだ。

浜辺の砂を利用した「砂の芸術」には、家族や友だち、学校のクラブなど約50組のグループが参加。砂を掘り、積み上げ、海水で固めることで、思い思いの芸術品を作り上げていく。完成した砂像は、ワニやカメ、スペースシャトルにアニメのキャラクターなどさまざま。

計図を持ち込む本格的な参加者もいるほどだった。大図鑑と設

賞やファミリー賞などを投票で決めた。砂像は、その日の内に子どもたちの手で砂浜へと戻された。

海とふれあいながら、催しを楽しむ参加者の笑顔が印象的だった。子どもが懸命に海水を運んでは、シャベルで砂を整える。その傍らで、汗を流しながら大声で笑う大人の姿。この日ばかりは大人も童心に帰り、自然との一体感を満喫できたようだ。（Y）

夏日のような好天でにぎわう

鎌倉・逗子の海は家族たちで

4月から5月初旬の大型連休は好天に恵まれ、観光や行楽の人たちで、どこもにぎわった。夏日を思わすような陽気に鎌倉や逗子などの海辺はゲームなどの行事もあり、元気な声が響いた＝写真。まだ海水温は低く、海の感触にひたる程度だった

が、子どもたちは「楽しかった」と息を弾ませた。

パレードや模擬店、演奏会など

好天の7回大船まつりにぎわう

強い日差しで夏を感じるような好天の5月9日、第7回大船まつりがにぎやかに繰り広げられた。鎌倉女子大中高等部のマーチングバンドの先導で、関谷一輪車クラブや岩瀬婦人会、鎌倉レクリエーション協会、鎌倉民謡民舞協会、小袋谷囃子会など参加15団体の約5百人が目抜き通り約4㌔をパレードした＝写真。

沿道には親子連れらが、人垣をつくり、ミス鎌倉、武者行列、一輪車、手踊りなど華やかな衣装の人たちの行進に声援を送った。

広場では和太鼓、吹奏楽、祭りばやし、マンドリン、ギターの演奏などのコンサートも開かれた。遊び広場では竹馬、ベーゴマ、折り紙、マジックショー、似顔絵などもあった。

大船消防署のはしご車の体験乗車、綿菓子、やきそば、やきとりなどの模擬店も雰囲気を盛り上げた。

約80店のフリーマーケットもあり、訪れた人たちは音楽を聞いたり、やきそばを食べたりと楽しんだ。

福祉施設でいやしのじょうぶ湯

鎌倉中央ロータリークラブが寄贈

鎌倉市笛田の教養センターで5月10日、しょうぶの贈呈式が行われ、鎌倉中央ロータリークラブ（会員32人）の矢内原巧会長から鎌倉市社会福祉協議会の梅澤淑弼会長にしょうぶが手渡された＝写真。同クラブの奉仕活動の一環で、地域のお年寄りが季節を感じ、健康の増進を図ってほしいと05年から行っており、春

はしょうぶ、冬はゆずを寄贈している。みずみずしい緑色のしょうぶの束がさっそく同クラブ会員たちの手で風呂にいれられ、浴槽に広がった。

ほかにも名越やすらぎセンター、今泉さわやかセンター、玉縄すこやかセンター、こゆるぎ荘の5施設に届けられた。これらの施設は市内在住の60歳以上の高齢者が無料で利用できる。

鎌倉・ヤマセミの会の木彫り展

まるで本物のような野鳥の木彫りの作品展が5月20日から6日間、鎌倉市内で開かれ、人気を集めた＝写真。出展したのは鎌倉バードカービングクラブ・ヤマセミの会（高野慎太郎会長）。

10年前、市内笛田の教養センターで「バードカービング」の講習会があり、その受講生たちで結成した。会員15人が毎月2回講習会を開いて腕を磨いてきた。約250点の作品はどれも見事な出来栄え。連絡先は高野さん方☎046・7・22・9469

漢方薬専門薬局・漢方処方調剤
大船の漢方薬
大船漢方堂
漢方薬専門薬局ですので、なるべく本人が御来店下さい。
〒247-0061 鎌倉市台1-3-10 TEL.0467(47)3311
営業時間：午前10時～午後7時　木・日・祝日休業

八幡宮前・蒲焼専門店
うなぎ　茅木家
☎（22）1460

かまくらの雰囲気で…
珈琲と洋菓子　門
小町店　小町通り中央　☎23－0503
北鎌倉駅前店　☎23－1660

鎌倉朝日新聞社
広告をお待ちしています
地域の活性化のためにも
TEL 0467(24)8553
FAX 0467(23)1205

あじさい、水ようかん 初夏の味をどうぞ。
御菓子司　大くに
鎌倉大町四ツ角　☎22－1899

Yanase　かまくらカスター
鎌倉本店　鎌倉駅前本館　☎23・3851
逗子店　ルミネウィング（大船）店
横浜そごう店　藤沢小田急店